

二松學舎大學論集

第 5 8 号

《 目 次 》

『後撰和歌集』秋上部「七夕歌群」と二二六番歌・二四六番歌の解釈について	山崎 正伸 (1)
『土左日記』一月七日	原 由来恵 (19)
勢語四段と日附規定——「ほのぼのとあくる」時刻——	保科 恵 (31)
「争座位文稿の研究」(二) —日本近世・近代大家臨書の一考察—	内田 征志 (51)
柳田國男と牧口常三郎—ふたりの教育論をめぐって—	高見 寛孝 (79)
桐簋銘文新釈	長谷川良純 (103)
『詩經』「寧風」詩考	福本 郁子 (123)
『詩經』に於ける「狐」「狐裘」に就いて	遠藤 寛朗 (149)
「屈原」に就いて	吉井 涼子 (179)
秦觀「浩氣傳」について	田中 正樹 (205)
夢の喩えをめぐって —ベルクソン『意識の直接与件についての試論』を中心に—	根田 隆平 (235)
<hr/>	
『窓』が『鏡』になるとき ——記号とメディアの「透明性」に関する研究——	松本健太郎 (1)
EPA (経済連携協定) における日本語研修とその弊害 ——事例からみえるもの——	阿曾村陽子 (23)
専門図書館のサービスを導入する ——「図書館サービス特論」に臨んで——	山本 幸正 (49)
インドにおける映画と社会	宮崎 智絵 (73)